

講演会・シンポジウム

2017

世界遺産から始まる新たな挑戦！

～持続可能な環境・観光地域づくりを目指して～

今年で4回目開催となる宗像国際環境100人会議では、“Think Global, Act local”を合い言葉に、大気からのPM2.5、海流から流れ着く漂着ゴミ、その中のマイクロプラスチック問題など世界的視点で環境問題も学びながら、地元福岡県立水産高校アクアライフ科が取り組んでいる「豊かな海づくり～Project-T」での竹魚礁作り（アオリイカの産卵を促進）、さつき松原、大島の沖ノ島遙拝所下海岸での漂着ゴミ清掃など地元での環境保全活動の実践を行いました。

宗像・福津は太古より海を介して大陸との交流の歴史を持った、世界に開かれた地域です。この地の歴史、変わらぬ信仰、文化は、“顕著な普遍的価値、ありと、世界遺産登録により世界の人々に評価されました。

ただ、宗像三女神を守り、祀ってきた宗像海人族の末裔である漁師たちを取り巻く、海の世界は日々悪化しています。地球の温暖化は海水温度を上げ、海の家藻類が枯渇する“磯焼け”の要因にもなっていますし、大気汚染は海も汚しています。

世界遺産登録が叶った今、未来に残すべきこの地の価値、守るべきもの、風景、暮らしについて一緒に考えてみませんか。是非、多くの方々のご参加をお待ち申し上げます。

問い合わせ先：宗像国際環境会議実行委員会
info@munakata-eco100.net

宗像国際環境会議ホームページ
http://www.munakata-eco100.net

宗像国際環境会議 検索

こちらから事前申込みいただいた方には当日、会場にて協賛品を差し上げます。

主催：宗像国際環境会議実行委員会

共催：宗像市

後援：環境省 / 福岡県

【宗像国際環境会議実行委員会構成団体】：宗像観光協会 / 宗像漁業協同組合 / 宗像大社 / 筑前七浦の会 / 宗像環境団体連絡協議会 / 一般社団法人九州のムラ / 特定非営利活動法人改革プロジェクト / 宗像フェス実行委員会 / 株式会社ジェイワーク / キリンビール株式会社 / シャボン玉石けん株式会社 / 新日鉄住金エンジニアリング / 新日鉄住金株式会社 / 日本航空株式会社 / 三菱商事株式会社 / 株式会社パワージャパンリユース / 一般社団法人 UMI・SACHI 推進会議 / 九州大学大学院 工学研究院 / 宗像市（順不同）

2017年8月27日(日) 9:15～13:00 (受付8:45)
会場：福津市文化会館（カメラアホール）

PROGRAM

9:15 開会

9:25 特別上映『地球交響曲』（ガイアシンフォニー）

10:20 宗像国際環境100人会議 2017 報告



清野 聡子氏
(九州大学 准教授)

10:35 第1部 基調講演



安田 憲喜氏
(環境考古学者)

11:20 第2部 シンポジウム
「世界遺産から始まる新たな挑戦！」

パネラー



上野 和博氏
(大島漁師)



葦津 敬之氏
(宗像大社宮司)



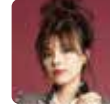
藤原 恵洋氏
(九州大学 教授)



八幡 暁氏
(カヤック冒険家)



奥田 政行氏
(料理人)



相川 七瀬氏
(歌手・作家)

コーディネーター



養父 信夫氏
(九州のムラ 代表)

12:50 第3部 宗像国際環境100人会議からの提言

入場無料

事前申込み不要

事前ネット申込者
の方は協賛品提供

宗像国際環境 100 人会議とは

海をメインテーマに、世界の各分野で活躍するリーダーや学識研究者たちが集まり、地球環境問題について解決策を協議するフォーラムです。また議会には地元の中・高・大学生たちも参加し、次世代の真の国際人を育成することも期待しています。

会場までのアクセス

会場 福津市文化会館（カメラアホール） 福岡県福津市津屋崎 1-7-2 TEL 0940-52-3321



車でお越しの方

九州自動車道若宮インターから約30分
古賀インターから約20分

公共交通機関でお越しの方

JR 福岡駅前バスより津屋崎橋行き
福津市文化会館前下車（約10分）

福岡空港

小倉駅

博多駅

福岡駅

カメラアホール

	車・タクシー		
地下鉄	約50分(約25km)		
約5分	JR鹿児島本線	車・タクシー	
	快速 約25分	約10分(約5km)	
JR鹿児島本線		路線バス 津屋崎橋行き	
快速 約45分		福津市文化会館前下車	
	車・タクシー	約10分(約5km)	
	約85分(約50km)		

登壇者プロフィール

司会



葛城 奈海氏

ジャーナリスト・俳優・防人と歩む会会長・やおよるずの森代表。

東京大学農学部卒業後、自然環境問題・安全保障問題に取り組み、森づくり、米づくり、漁業活動等の現場体験をもとにメッセージを発信。TBSラジオ『ちょっと森林のはなし』森の案内人(2008～2011)。2011年から尖閣諸島海域に漁船で15回渡り、現場の実態をレポート。林政審議委員。防衛省オピニオンリーダー。予備三等陸曹。予備役ブルーリボンの会広報部会長。日本文化チャンネル桜『海幸山幸の詩』『防人の道NEXT』レギュラー出演中。言論テレビ『言論さくら組 前へ、進め!』出演中。産経新聞『直球&曲球』連載中。

シンポジウム パネリスト



上野 和博氏

大島漁師

昭和47年大島生まれ。18歳から漁師。4代続く漁師。一本釣、刺し網、海士漁を生業とする。大島の漁師の中で沖ノ島周辺を主な漁場とし、沖ノ島への篤い信仰を持った漁師たちの組合「沖ノ島仲間」の一員。「外国から流れてくるロープ、ポリタンクなどものすごい量のゴミ、そこで事故が起こることも増えている」、「春先の海の汚れが最近気になる」。



葦津 敬之氏

宗像大社宮司

昭和37年11月福岡市箱崎生まれ。昭和60年皇學館大學を卒業後、同年熱田神宮に奉職。同62年神社本庁に奉職。平成8年主事。総務課長、情報管理課長、教学課長、国際課長、同21年参事、財務部長、広報部長を経て、平成24年4月に宗像大社に奉職。同25年権宮司昇任、同27年6月宮司昇任、現在に至る。ライフワークは自然環境問題。



八幡 暁氏

カヤック冒険家 グレート・シーマン・プロジェクト

大学時代より素潜漁を始め、卒業後は「潜れる海があれば、生きていける」と各地の漁師の仕事を学びながら国内外を巡る。シーカヤックと出会い、2002年からオーストラリアから日本までの多島海域を舞台にした人力航海の旅「グレートシーマンプロジェクト」をスタート。フィリピン-台湾海峡横断(07)など世界初となる航海記録を複数持つ。2005年、手漕屋素潜店「ちゅらねしあ」をオープン。2011年から日本の漁村を巡る「海廻路」、2014年より都市生活における水辺を取り戻す活動「じゃぶじゃぶ」を開始。



相川 七瀬氏

歌手・作家

1995年「夢見る少女じゃいられない」でデビューして以来、現在までのCDトータルセールスは1200万枚を越えている。音楽活動以外にも絵本の出版や小説「ダリア」を執筆、また岡山県総社市、長崎県対馬市、鹿児島県南種子町の赤米大使として伝承文化継承の活動をするなど活躍の幅を多方面にも広げている。2014年7月には日本の聖地の旅エッセイ「神結び」、12月に続編「縁結び」を、そして2015年9月30日には第三弾「太陽と月の結び」を出版。

基調講演



安田 憲喜氏

ふじのくに地球環境史ミュージアム館長
立命館大学環太平洋文明研究センター所長

1946年、三重県生まれ。国際日本文化研究センター教授、東北大学大学院教授を経て、現在ふじのくに地球環境史ミュージアム館長、立命館大学環太平洋文明研究センター長、国際日本文化研究センター名誉教授。スウェーデン王立科学アカデミー会員賞、中日文化賞、紫授褒章など受賞。著書に「稲作漁撈文明」「1万年前」「環境文明論：新たな世界史論」「森の日本文明史」ほか多数。

100人会議報告



清野 聡子氏

九州大学大学院工学研究院環境社会部門 准教授

海岸の貝拾いを3歳から始め、現在は海岸環境の保全・再生を研究している。環境保全と人間活動の両立の可能性を研究。専門は生態工学、環境計画・政策など。東京大学農学部水産学科卒業、同大学院農学研究科水産学専攻修士課程修了。同総合文化研究科広域科学専攻助手・助教を経て現職。農学博士(水産学)、博士(工学)。



藤原 恵洋氏

九州大学大学院教授(芸術工学研究院)・工学博士・建築史家

1988年東京大学において工学博士の学位取得後、東京大学生産技術研究所研究員、千葉大学工学部工学部工業意匠学科助手、國學院大学兼任講師、九州芸芸工学科大学講師・助教、オランダ国立ライデン大学文学部日本学センター客員教授を歴任。2005年より現職。文化庁文化審議会世界文化遺産特別委員会委員、日本イコモス国内委員会委員など。



奥田 政行氏

料理人

山形県鶴岡市生まれ。鶴岡市のイタリア料理店「アルケツチャーノ」オーナーシェフ。食の都庄内親善大使をつとめるなど地産地消を代表する料理人。鶴岡市農業発展奨励賞、山形県産業賞、大第一回辻静雄食文化賞、第一回農林水産省料理マスターズなどを受賞。日本各地でレストランをプロデュースし地方の食材の情報発信拠点を作っている。スイスダボス会議ジャパンナイト総料理監修、ミラノベジタリアンチャンス世界3位など。「地方再生のレシピ」、「食べもの時鑑」著者。

コーディネーター



養父 信夫氏

一般社団法人九州のムラ・UMI・SACHI 推進会議 代表理事

1962年6月宗像生まれ。福岡高校、九州大学法学部卒業後、86年株式会社リクルート入社。95年、都市部と農村とをつなげるグリーンツーリズムを広げるために独立。97年より「九州のムラ」編集長。現在は「NipponノMURA」発行・編集人。総務省地域創造カoadパイザー、内閣府地域伝道師。27年6月海の環境保全を行うために一般社団法人UMI・SACHI 推進会議を設立。